

# Nihongo Network News

2004.9.10発行

No.47

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

## 各地の日本語学習支援のネットワークや TNVN会員団体からの ニュースレターを閲覧

TNVNは現在年4回ニュースレターを発行。会員のほか日本語学習支援団体・関係団体へ送付、東京ボランティア市民活動センター(TVAC)ロビーに置き、多くの方々に読んでいただいています。

TNVNの事務局には各地域から“日本語”に関連する印刷物が定期的に送られてきます。この中に全国の日本語学習支援活動に関わるネットワーク(\*1)やTNVNの会員団体(\*2)から届けられるニュースレターがあります。

記\*1 北海道日本語教育ネットワーク、房総日本語ボランティアネットワーク、東海日本語ネットワーク、大阪にほんごボランティアネットワーク、兵庫日本語ボランティアネットワーク、北陸地区日本語教育ネットワーク  
記\*2 八王子にほんごの会、江戸川ユニオン日本語教室、日野国際友好クラブ、MIFAまちだ地域国際協会

いずれも会員への情報提供を通し会員間の密なる交流を目的とされています。最近ネットワーク・日本語教室ともに日本語学習支援活動の大きな節目である10周年記念事業が報告されています。第一ページには巻頭文やその団体での主要行事が載っています。

続いて、総会報告、講演会・研修会開催と報告、会員動向、学習者・学習支援者の文、団体紹介、お知らせ・事務局便

りです。

### ●ネットワークでは

巻頭文で組織運営・日本語学習支援の基本的な課題が触れられています。

- ・組織運営や活動方法の改善を求めている活動
- ・プロジェクトへの積極的な会員への呼びかけとその推進
- ・会員同士、外の集団との横断的な人的および情報の交流
- ・日本語支援をこえた日本語ボランティア活動の可能性

### ●地域の日本語教室については

- ・外国人が抱る様々な問題が提示される場で、これに取り組む拠点
- ・日本語ボランティアの個人的な対応には、質的・量的に限界があり、地域の日本語教室がこれらの問題を解決するためにネットワークが必要
- ・日本語学習支援を通し、学習者、学習支援者が共に学び合う大切さと課題
- ・公共機関といかに連携するか、様々な専門性とうどうつなげるか、
- ・地域の日本語教室の存在意義とネットワークの重要性

### ●出会いの場の提供には

外国人のコミュニティ形成、地域の組織（自治会や子供会、学校）との連携、生活の場とのつながり。地域の日本語学習支援事業に文化庁や地元自治体の協力が得られるようになった。それぞれのネットワークは一步一步成果を挙げていることが伝わってきます。そしてネットワーク構築・他の分野とのネットワーキングなど広がり求められています。

### ●会員団体では

学習者と学習支援者との交流を中心とした、日本語スピーチ大会・夏の集い等の各種行事、特に学習者の寄稿文、感想文に多くの紙面を当てています。教室活動風景、料理のお国自慢、ボランティアのリレーエッセイなど意見交換の場を設けています。

役員会・幹事会、研修会・講演会・行事などを周知しています。

### ●情報の閲覧

これらの情報は「にほんご」ファイルに、TNVNのニュースレターもバックナンバーファイルに納め、TVACのファイル棚に置いてあります、是非ご覧下さい。

### ●その他の情報

中国帰国者支援・難民支援の団体、国際交流団体、出版社、文化庁、国語研究所、大学、東京都文化局広報等から冊子、行事案内など貴重な情報が届けられています。(梶村勝利)



# 大学院の日本語教育研究

## — ボランティア日本語教育との関連性 —

寄稿

早稲田大学大学院日本語教育研究科教授 川口 義一

早稲田大学には、すでに開設4年目、世界唯一の日本語教育単科の大学院である、大学院日本語教育研究科があり、演習担当者だけで10名もの専任教員がいます。教員の数が多い分、学生数も多く、この秋に入学の修士課程8期生、博士課程4期生を含めて130名以上（半数弱は外国人）が学んでいます。中には、ボランティアで地域の外国人在住者の日本語支援に関わっていた人も多く、それぞれの動機で勉強しています。

演習指導や専門講義の内容に、ボランティアの日本語支援に関連するものが多いのも、わが大学院研究科の特徴です。例えば、川上郁雄教授の「年少者教育」の授業では、日本で初・中等教育を受けている外国人子弟の日本語教育・教科教育と日本語教育の関係・支援ネットワークの形成・多文化共生などの問題を取り上げていますので、TNVNの会員のみなさんの興味にもっとも近い分野が扱われていると言えます。「第二言語習得」の専門ゼミを持つ宮崎里司教授は、『外人力士はなぜ日本語がうまいのか』（2001・日本語学研究所）という本の著者として有名ですが、教室以外の日本人との接触場面で学習者がどのような学習方略を駆使して日本語を習得していくか、それに周囲の日本人はどう関わっているのかなどを研究していて、これもTNVNの活動の一部に大いに参考になる分野です。「言語文化教育」の講座を持っている細川英雄教授の講義や演習に出ると、日本人がネイティブの日本語話者であること、日本文化の体得者であることの意味を徹底的に問われ、はたして「日本文化」などというものが存在するのか、というところまで議論が及びます。これは、「言語＝文化」という捉え方で外国人を日本文化になじませようとする、現在の日本語教育の一般傾向に反省を迫るという点で、日本語支援者たるボランティアも、一度は考えてみるべきテーマでしょう。

この記事の筆者である私も、同じくボランティア日本語教育に深く関わる分野の研究をしています。私の研究テーマは「文型・文法教育」なのですが、最近特に「表現のための文型・文法」ということについて続けて論文を発表しています。というのは、従来の文型・文法の説明があまり



実際の表現のためになっていないからです。例えば、初級教科書の接続助詞ト・バ・タラの違いは、前後に続く語形や表現の制約を述べたものが多いのですが、それが「何を言いたいために使い分けられるのか」の説明はほとんどありません。ところが、拡大コピーのやりかたを聞かれて説明するとき、「このボタンを押せばいいんですよ」と「このボタンを押すと、[拡大]の倍率が出ます。そこで希望の倍率を選ぶと拡大できますよ」と「えっと、このボタンを押してみたらどうですか。あれ、拡大になりませんね。おかしいな」というのは、ト・バ・タラがきちんと使い分けられて、それぞれの表現になっています。こういう現象を説明できないと、「こんなことが言いたいためにどの文法要素を使うか」という、まさに生活上の表現のための日本語支援においては問題解決の役に立たないため、何とかしようというわけなのです。

このように、早稲田大学の大学院日本語教育研究科では、ボランティア日本語教育に関係のある分野がいろいろと取り上げられて研究されています。大学院に入らないまでも、大学のHPから上記の教授陣のHP（私のは準備中ですが）に入ってみたり、日ごろの問題について、かれらに（もちろん私にも）直接メールで質問してみたりしてはどうでしょうか。私たちの大学院の研究は、「現場の役に立つ」ことを目指して行われています。ぜひとも、活用していただきたいと思います。

### ..... 筆者プロフィール .....

川口 義一（カワグチ・ヨシカズ）。1949年生。早稲田大学大学院日本語教育研究科教授。留学生のための日本語教育と専門研究科の大学院教育を兼務する。著書に『敬語表現』（共著・1998・大修館）、『Live! 成長する教師のための日本語教育ガイドブック』（共著・近刊・ひつじ書房）など。海外での研修会講師・招待講演などの経験多数。





# 日本語自主教材 「中国帰国者のためのポイント」 について

わたしは、夜間中学校で主に中国帰国者に日本語を教えてきた。その中で、彼らが母語である中国語に引張られ、様々な間違いをしていることに気が付いた。このような経験を踏まえ作ったのが、この教材である。以下、この教材について簡単に説明する。

## 1 教材のねらい

- ① 中国語を母語とする中国帰国者は、しばしば“中国語的日本語”を話すという傾向を踏まえ、その“克服”のため作ったのがこの教材である。
- ② したがって、この教材は基本テキストではなく補助的教材である。

## 2 教材のパターン

前半で内容を整理・理解、後半の練習問題で定着をはかる。

## 3 指導内容

- ① 「つけてください」と「けしてください」等：生徒はよく「テレビをあけます」「窓をつけます」という間違いをする。これは中国語では「つける」「開ける」は動詞「開」「消す」「閉める」は動詞「関上」を使うことから来ている。
- ② 場所を表す助詞「に」と「で」：中国語では、「に」も「で」も「在」を使うが、日本語では「に」は存在に対し、「で」は行動、事件、催し、事柄に対し使う。
- ③ 助詞「に」と「を」：中国語では「電車に乗る」「電車を降りる」は、それぞれ、「坐電車」「下電車」と、「動詞+目的語」という組み合わせだけ

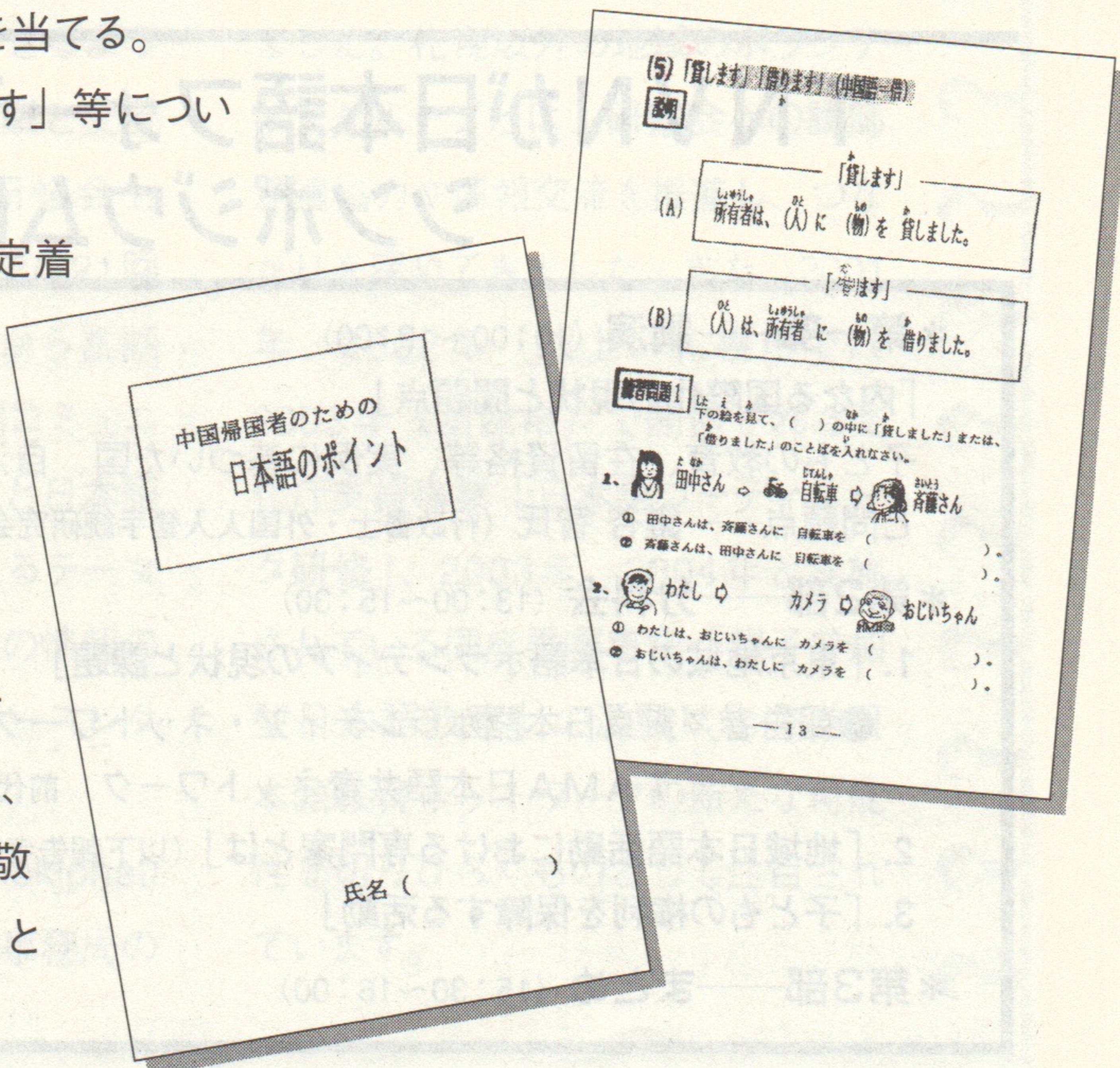
で表現する。

そこで、「に」は対象への「到達・進入」を意味する動詞を使うとき、「を」は対象からの「分離・脱出」を意味する動詞を使うときに使用することを示す。

- ④ ～的名詞：生徒は、かなり日本語の学習をつんだ者でも「おいしいの餃子」とか、「きのう買ったのカメラ」などの間違いをする。これは、中国語の連体修飾語が、「的」を修飾語の後、名詞の前に置くというきまりからきている。
- ⑤ 「貸します」と「借ります」：中国語では、これは「借」という一つの動詞で表現する。日本語では主語が所有者の場合「貸す」、そうでない場合「借りる」を使う。
- ⑥ 「あげる」「くれる」「もらう」：中国語では一般的に動詞「給」一つで物の贈与関係を表すが、日本語では「所有者」が主語・目的語のどちらかや人称の違いにより変わる。「動詞+あげる」等の場合「所有者」に変わり「行動中心者」を当てる。

この他、「差し上げます」等についても教える。

- ⑦ 友達家族語：ます型が定着し、敬語を一応学習したことが前提となる。最初、「い形容詞、名詞、な形容詞」を教える。順次、友達家族語、普通の敬語（ます型）、上級の敬語（れる、られる）、特別な上級の敬語（いらっしゃいます等）として、教える。





# 2004年度 文化庁日本語教育大会に 参加して

恒例の「文化庁日本語教育大会」が今年も8月3日(火)、4日(水)昭和女子大(東京・世田谷区)で開かれました。年少者の学習支援に関するテーマが中心で、猛暑にもかかわらず、多数の参加者がありました。参加したTNVN会員団体の中から2団体の代表に感想文を寄せて貰いました。

## 当会には関心のあるものでした

八王子にほんごの会 齊藤 広子

権の花・電信柱すれすれに

世田谷線はゆるりと走る

八王子に住む私は、下高井戸から三軒茶屋まで、世田谷線にのんびり揺られて8月3日、4日の文化庁日本語教育大会に今年も参加しました。

テーマは、「年少者への日本語習得支援について考える」で、当会には関心のあるものでした。と申しますのも、一昨年から、当会の取り組みのひとつとして、児童・生徒の学習支援を、ニーズに合わせて少しずつ展開しているからです。何かヒントになればとの思いがあり、楽しみに参加しました。

かねがね、私の構想の中にあつた親子教室の事例も聞くことができました。主に乳幼児との親子教室の例が話されていました。それはそれなりに意義あることと感じましたが、現実、学齢期の児童・生徒の日本語支援・教科支援の待ったなしの声が、クローズアップされなかったことが、心残りでした。しかし、秋田県能代市からの体験発表で「学校は子どもを生かしも殺しもする。」という悲痛な叫びには、胸が痛みました。

学校、教育委員会、自治体、地域支援者が連携を取り合い、子どもたちの実態に合わせた支援を急がなければならないと強く感じました。

また、文化庁の冊子には、「日本人児童・生徒への国際理解教育」について次のようなまと

めがありました。「最近、留学生を招いてお国の紹介や交流が盛んである。大変いい試みであるが、もっと身近に、同じ学校、教室に、隣の席にいる一緒に学んでいる文化の違う仲間の存在を子どもたちに認識させることの方がより大切だと考える。文化の違う子どもたちの独自性や存在価値を引き出すことによって当該の子どもたちのみならず全ての子どもたちに対して子ども一人ひとりの多様性への気づきを促し、生き生きとした教育の実現に向かってほしい」正に、日頃の持論を後押しされた感じがしましたが、学校の実践が行き届くよう、引き続き訴え続ける重要さを痛感しました。

## 8月3日の 全体会に出席して

やさしい日本語 岡田 美奈子

「年少者への日本語指導等に対応した教員の給与費等を国庫負担にしている」という文化科学省説明の傍ら「ボランティアに協力してほしい」という提言もありました。

「太田市では年少者への日本語指導をどのようにやっているか、日本語学習支援者は公務員なのか、ボランティアなのか、プレスクール構想とは、カリキュラムは」等々、太田市の行政担当者の報告をもっと詳しく聞きたかった。

この全体会は「行政はどこまでやるつもりなのか、ボランティア頼みなのか」が曖昧なまま終始したように感じました。

## TNVNが日本語フォーラムの シンポジウムに参加

TNVNは日本語フォーラム全国ネットが開催する「日本語フォーラム2004 in 東京」の分科会に参加することになりました。皆様のご参加をお待ちします。

### \*第一部——講演 (10:00~12:00)

「内なる国際化の現状と問題点」

子どもの教育、在留資格等、事例に基づいた国、自治体、NGOの実状と問題点——鍵谷 智氏 (行政書士・外国人入管手続研究会代表)

### \*第2部——分科会 (13:00~15:30)

#### 1. 「東京地域の日本語ボランティアの現状と課題」

- 報告者/東京日本語ボランティア・ネットワーク 代表 梶村 勝利  
TAMA日本語共育ネットワーク 前代表 吉村 多恵子

#### 2. 「地域日本語活動における専門家とは」(以下報告者等は省略)

#### 3. 「子どもの権利を保障する活動」

### \*第3部——まとめ (15:30~16:00)

●日時/9月26日(日) 10:00~16:00

●場所/法政大学大学院棟(401教室)

JR市ヶ谷または飯田橋駅下車各10分

●会費/500円(当日お支払い)

●お弁当/(飲物付):500円(申込時に予約)

●申込締切/9月14日

●申込先

E-mail/床呂 m-tokoro@mta.biglobe.ne.jp

Fax/横山 03-3627-4009

●主催/日本語フォーラム全国ネット

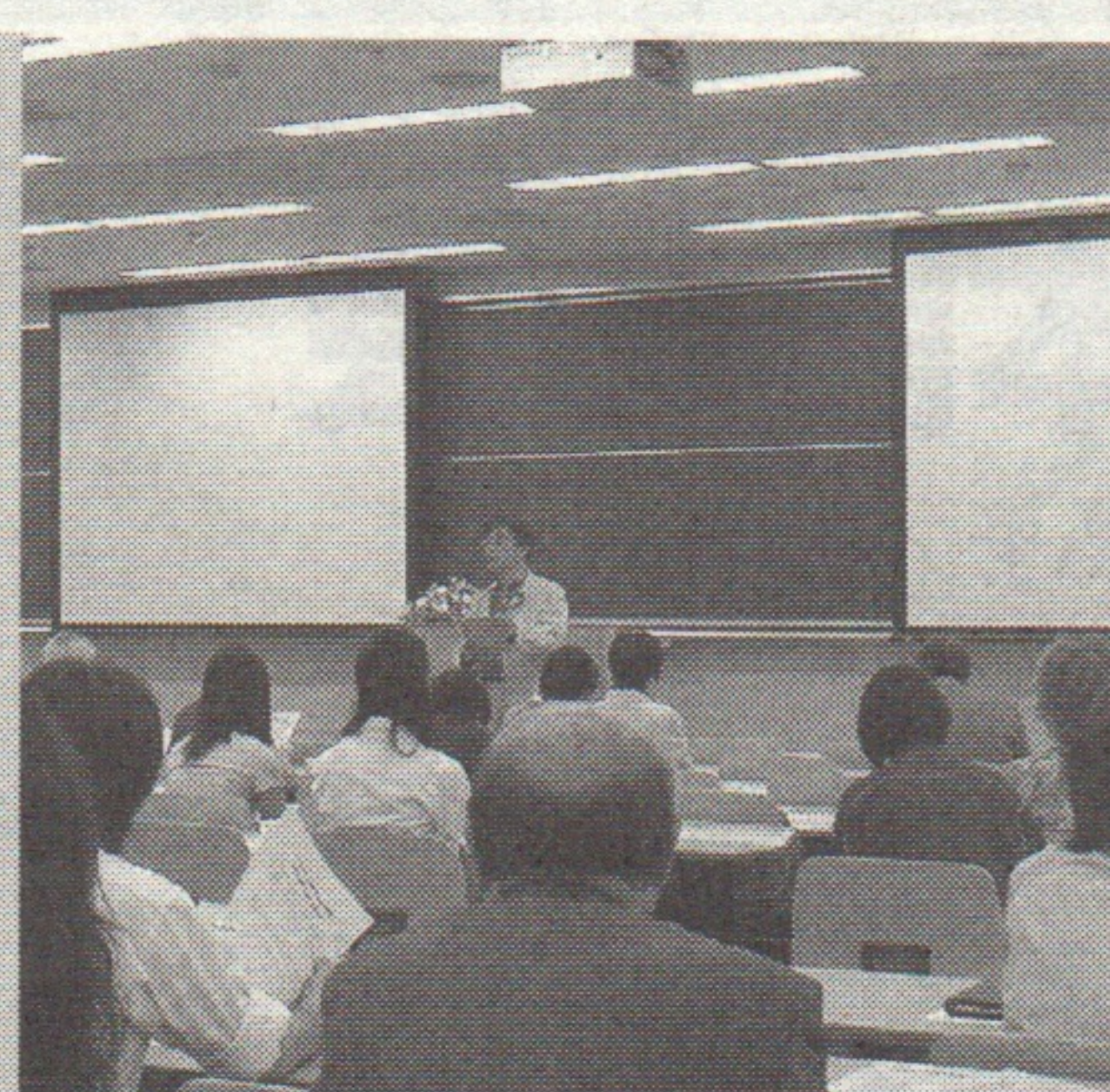




# 北海道日本語教育 ネットワーク

## 設立経緯と活動の概要

代表 中川 かず子



060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館12階北方圏センター内 TEL/FAX 011-280-5834  
hokjpnet@lapis.plala.or.jp http://www12.plala.or.jp/hokjpnet/

北海道日本語教育ネットワークは、大学、日本語学校、ボランティア教室の日本語教師と日本語教育関係者の「相互研鑽並びに交流」（規約第3条）と「地域の外国人の日本語支援活動に寄与すること」（同上）を目的に、1994年1月に準備委員会設置、同年7月に正式に発足となりました。今年の7月に10周年を迎えたところですが、当初の目的はどちらかと言うと、前者が中心だったと言えます。というのは、当時、中央とのつながりの多い一部の大学専任教員を除き、道内の日本語教師達の多くは地元での研修会の機会を求めていたため、教師間の相互研鑽、情報交換を望む声が高まっていました。北海道は遠隔地にあることから、研修会はもちろん、日本語能力試験や日本語教育能力試験の受験に際しても、東京など本州の会場まで出向いて行かねばならず、何かと不便に感じる人達も多かったのです。また、道内に留学生、就学生を受け入れる大学や日本語学校が複数存在するにもかかわらず、相互交流が十分ではなく、日本語教育に関する情報の共有を求める声も出てきたこともあって、ネットワークづくりに時間がかからなかったのでしょうか。当時国立国語研究所を中心に企画された全国的な相互研修ネットワークの働

きかけにすぐに応じ、活動を開始できたのも、それまでの地元の結束とニーズの高まりがあったからだと思っています。

ネットワーク結成後に取り掛かった仕事は、日本語能力試験と日本語教育能力試験の試験会場の誘致運動でありました。留学生や日本語教師志望者からのアンケート、現職教師からの声を携えて文部省に陳情に上がったのです。様々な方々の協力を得て、試験会場誘致に成功し、翌年の1995年より北海道で初めて上の二つの試験が実施されることとなり今日に至っています。1996年より国際協力事業団（JICA）、北海道国際センターでの日本語講座が開設され、教師派遣の協力も行い、地元の日本語教育に少しずつ貢献ができるようになりました。教師間の研鑽と交流の場となった年2回の大研修会も1994年から2004年7月までに21回を数え、日本語の教え方から言語学、比較文化学、異文化間コミュニケーション、地域の国際化と日本語教育、などの多方面にわたるテーマで実施されました。会員間の情報の受発信は年4～5回のニュースレターとホームページ

<http://www12.plala.or.jp/hokjpnet/>が担い、図書・情報資料は事務局の

あるリソースセンターが管理しています。リソースセンターでは図書やホームページの管理だけでなく、これまでのネットワークの活動の記録が保存されています。今後は日本語教師だけでなく、学習者も活用できる地域の日本語教育リソースセンターを目指し可能性を探っていきたいと思います。

上で挙げたネットワーク設立当初の目的の二番目に当たる「地域の外国人への日本語学習支援」については、1996年の（財）札幌国際プラザとの共催で始まった「お隣さんは外国人」事業（地域の外国人との交流）や「ボランティアマップ（教室紹介）作成」などの活動が地域日本語ボランティアの活性化につながりました。札幌以外の地域のボランティアグループとは、研修会への講師派遣協力や情報交流を推進し、つながりを深めてきました。また、2001年、2002年（以上、札幌市で）、2003年（函館市）で開催された文化庁支援事業「日本語コーディネータ研修」、2003年、2004年と実施されている同庁委嘱事業「親子参加型日本語教室」の活動は北海道日本語教育ネットワークの新たな可能性を切りひらくものとして注目されています。



## nice to meet you

子供といっしょに参加できます

# 日本語の会 くれよん

石原 弘子 (目黒区)

ある活動日のこと、妊娠8ヶ月のお腹の上に、2歳のK君を抱えて、オーストラリアのDさんが帰国の挨拶に来てくれました。

ママの忙しさのせいで、気持ちが不安定になっているK君は、泣いてママをてこずらせてばかりとか。ママも疲れて、今にも泣き出しそうです。彼らの登場で、会場全体が落ち着かなくなり、日本語の勉強はストップしてしまいま

した。それを救ったのは、思いもよらない、けんか友達の韓国のEちゃんでした。K君の大好きなスヌーピーのおもちゃを貸してあげたのです。親の輪だけでなく、子どもの輪も生まれていたことに気がついた出来事でした。

毎週木曜日、目黒区子ども家庭支援センターで子どもを連れて参加できる活動を、男女平等・共同参画センターで子ども連れの人、子ども連れでない人も参加できる活動をしています。毎週火曜日には、国際交流協会の会場で



「火曜日のくれよん」もしています。どの活動も、外国人・日本人ともに参加毎100円、地域に良い関係を広げていくことが目的です。

外国人も日本人もほぼ全員、主婦です。日本語の勉強以外に各種交流行事、料理教室なども行い、年度末に多言語文集・活動記録誌「こんにちは」を作成しています。

## 会員団体紹介

# Nice to Meet You

「話しましょう 日本語を」は、十数年の歴史がある東京都練馬区の日本語教室です。

毎週火曜日、午後1時から3時まで、西武池袋線石神井公園駅近くにある区の石神井庁舎会議室をお借りして、日本語を母語としない方々に対し、日本語教育の研修を終了したボランティアが日本語を教えています。

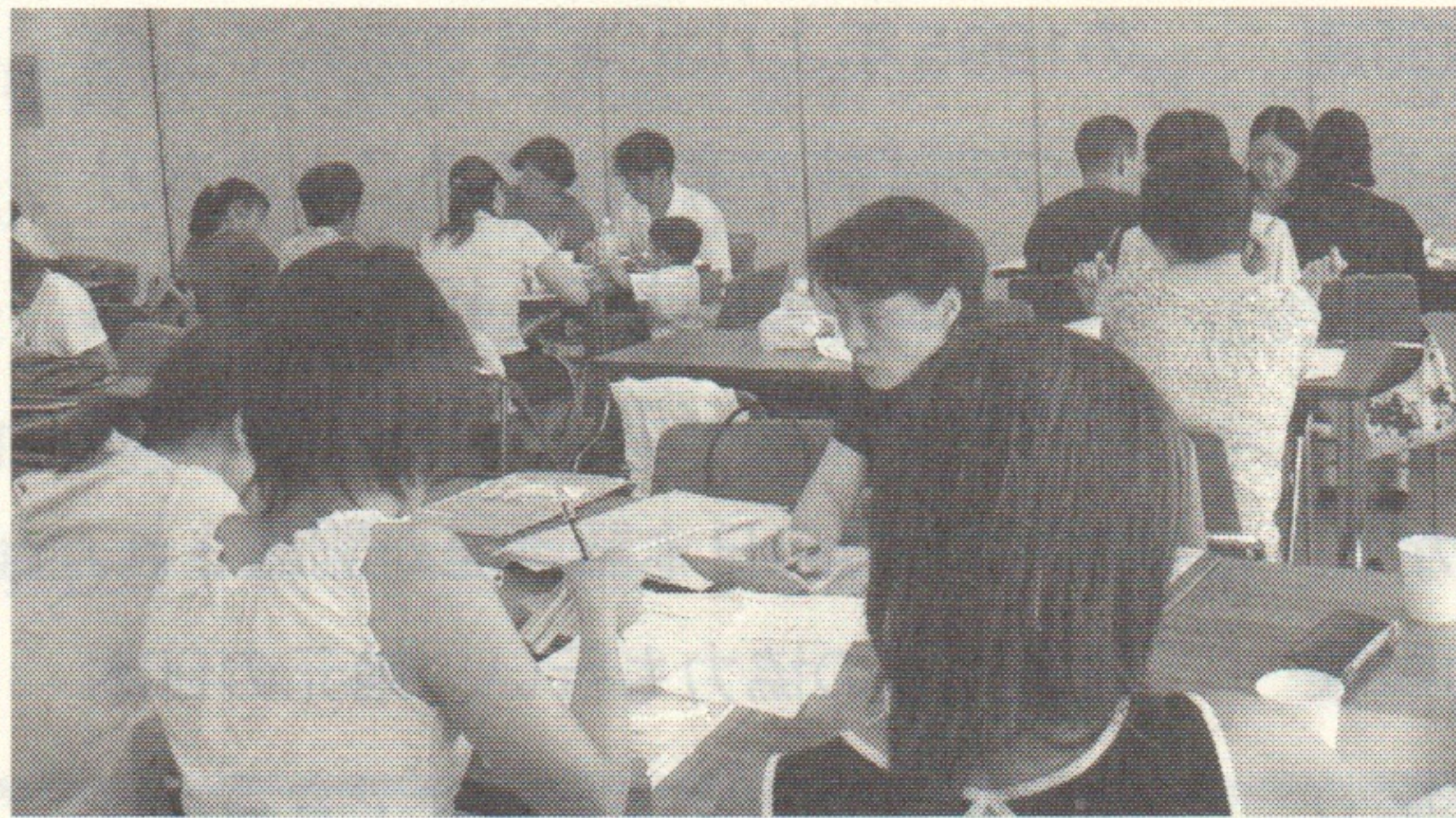
当初の私たちの活動目的は、日本在住だが日本語が母語ではない主婦の方たちに日本語をきちんと学べる機会を提供する、というものでした。子供が病気の時、医者とコミュニケーションがとれない、保育園、幼稚園等の書類がわからない、書けない、などに代表される不便、不安感を少しでも軽減できれば、という発想です。ですから、教室の時間も場所も一定で、いつも、火曜日の1時から3時までは、あそこに

## nice to meet you

お互いによき隣人として、同じ地域で生活をしていけるよう、

# 話しましょう日本語を

竹内 徹 (練馬区)



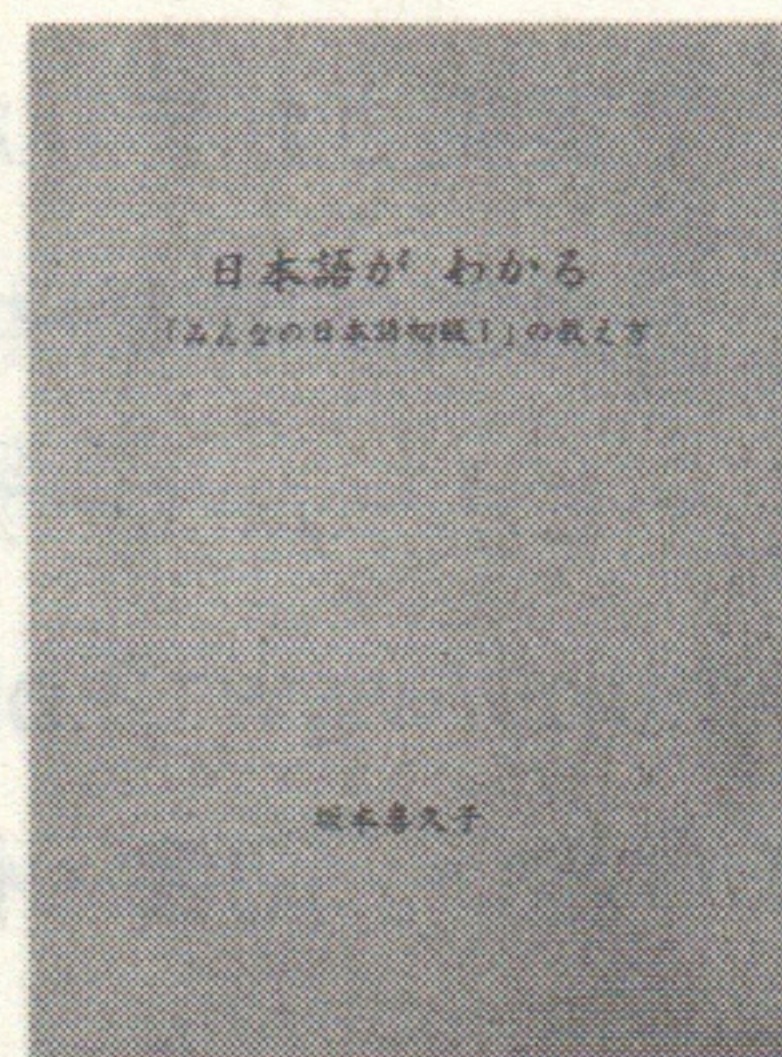
行けば教室が開催されている、先生や友達に会える、という状態を維持してきました。また、幼い子供さんたちを教室に連れてくることも、まったく問題ありません。教室の全員でケアしていこう、という考え方です。

もちろん、現実に教室に集る学習者は、前述のような主婦の方々ばかりではなく多種多様です。国籍も性

別も宗教も年齢も母語も違う人々が集って、お互いによき隣人として、同じ地域で生活をしていけるよう、そして相互理解と更にスムーズなコミュニケーションが出来るよう、私たちはこれからも頑張っていきます。

ボランティアの教師たちも、さらに分かりやすい教え方、様々なケースへの対処、などスキル向上のため、自主的な勉強会をもって、より良い日本語教師を目指し努力を続けています。

## 本の紹介



## 「日本語がわかる」 坂本 喜久子著

当教室代表である著者が、長年の教育経験を活かし、スリーエーネットワーク発行「みんなの日本語初級I」をベースに、各課で教えるポイントを、説明の手順、例文の提示、よくある学習者の疑問とそれに対する答え方など、教える側にとって参考になることが満載の本です。

B5版 240頁 定価1,700円(送料340円、及び梱包手数料100円別途)

●お問い合わせは Fax.03-3867-2317(西脇)まで。



学習者の声

課外活動は  
 良い思い出になります

宗偉 / 中国

早稲田奉仕園日本語ボランティアの会・日本語サークル(新宿区)

さんと一緒に美しい自然があるところに行きました。川の両側に木がたくさん植えてありました。

目を閉じると川の音が聞こえます。草の上で昼飯を食べました。日本の有名な歌を習いました。あとは矢切の渡しと草滑りを選びました。私のグループは矢切です。

私たちは船で東京から千葉まで渡りました。

外国人は日本語を勉強する間に日本の文化、人文、歴史、習慣をもっと勉強したほうが良いと思います。そうしたらもっと日本語を勉強する興味が湧きます。

課外活動に参加するのは留学生活の中で良い思い出になるでしょう。



最後列 帽子を被っているのが宗君です

私は奉仕園の日本語サークルに通う学生のひとりです。学校はいつも教室で日本語を教えますが奉仕園の日本語サークルはいつも教室ではありません。時々課外活動があります。

今年の課外活動は日本映画で有名な主人公、寅さんの故郷を訪ねました。寅さんの故郷は古い町で自分が思っていた日本の街とよく似ています。先生達は柴又の建物や売っている物を説明してくださいました。日本語を勉強するのにとても役立ちます。

この勉強のほうほうはとてもいいのではないのでしょうか。

帝釈天に行きました。この神社は大きくて古いです。柴又帝釈天は江戸時代の初めに建てられたそうです。有名な彫刻や絵があります。本物とすごく似ていますのでずっと見ていたかったです。でも時間がなかったので今度自分でゆっくり見たいです。東京は何でもあって国際都市なのにない物が一つだけあります。それは美しい自然です。皆

ボランティアの声

寺沢 さえ  
 つくづくひびく  
 感じのよい声

武蔵村山日本語の会(武蔵村山市)

辞書もあるし、教材もあるし、普段話しているこの普通の言葉で日本語学習のお手伝いをするのって、大丈夫きっととても楽しくてステキなことだワ、なんていう単純さと、日本語支援の必要性を痛感したことがくっついて、日本語ボランティアを始めました。

この会が初めてできてから、まだ一年半位です。このまだ一年半位の間に、確かに辞書もあり教材もありとても楽しい活動ではあるのですが、なんだかとてもムズカシイこともいっぱい、と改めて実感しています。

中国語もポルトガル語もベトナム語もタガログ語もわからない私達ボランティア。稀ですが時には、この会に来たばかりの日本語も英語もわからない学習者の口から母国語がマシンガンのように溢れ出る、こちらはチンプンカンプンだがとにかくしゃべり続ける、ということもあります。その

内容は学習者の身内のことが多いようですが、少なからず生活の中で言いたいことを伝えられないとか、何かを誰かに解ってもらえないとか、それらがたまと本人には多分かなりキビシイ。

で、そんな時にはわたくしの場合、ひたすら聴きます。聴きながら時折、関連すると思われる日本語の単語を一つ教えるフリをして、また聴きます。

日本語ボランティアと一口に言っておさまる活動ではない日本語ボランティア。枠や定義の難しいお話はさておき、どんなボランティアをするにもまず皆のわれらの心の中にあるごく自然なやさしい気持ちがとてもとても大事なんだなあ、とつくづくひびひ感じています。活動を通して大きく育てられ多くの多くのものを学んでいるのは、実はボランティアの方なんですね。



**東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局**

事務局は下記の時間通り活動しています。

◆日時：毎週金曜日

第1、第3、第5 金曜日／午後2時～4時  
第2、第4 金曜日／午後2時～7時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線一出口B2b）飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。  
またメールでのお問い合わせにもお応えしています。  
ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス NO.4

TEL：03-3235-1171

（呼出：金曜日活動時間帯のみ）

FAX：03-3235-0050

E-mail：webadmin@tnvn.jp

URL：http://www.tnvn.jp/

**TNVNへの入会を希望する方に**

TNVN は都内および周辺の地域で日本語ボランティア教室・サークル活動をしている団体のネットワーク（連絡協議会）で情報交換を目的に活動を行っています。

活動にご協力をいただける団体・個人のご入会をお待ちしています。

ただし、現在は独自にボランティア日本語教室は開いていません。

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。

（送料90円切手同封）

◆入会手続

申込用紙に必要事項を記入し、TNVNの事務局に郵送又はFAXでお送り下さい。  
E-mailでも申し込めます。

あわせて会費をお振り込み下さい。

会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ参加できます。

◆会費

正会員：年会費3,000円

協力会員：年会費2,000円

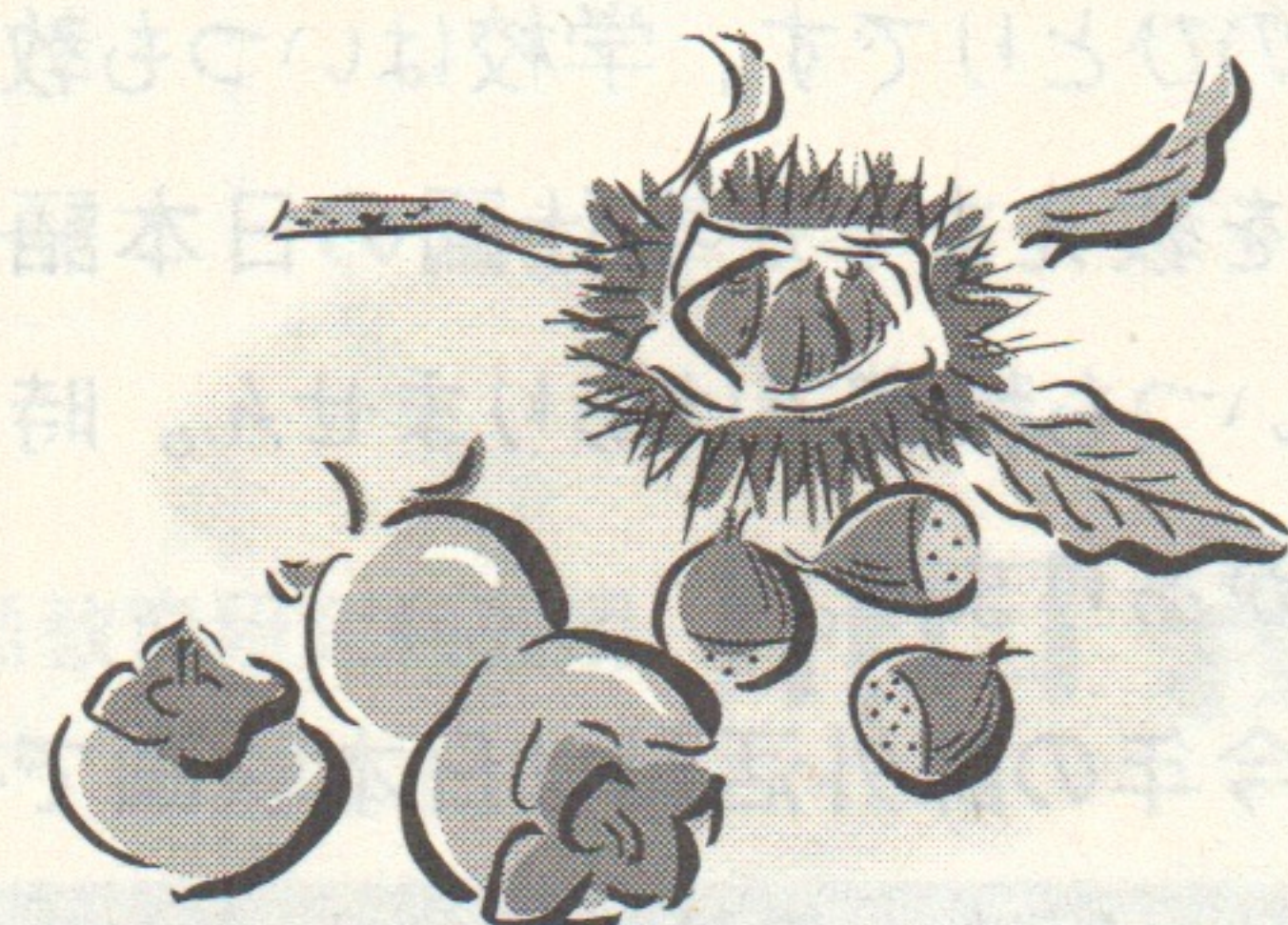
賛助会員：年会費1口1万円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号00100-1-719259

◎口座名

東京日本語ボランティア・ネットワーク  
（通信欄に『年会費』と記入）



私は1996年4月発行のニュースレターから誌面のレイアウトを担当しています。皆様のように、直接学習者と向き合うことはありませんが、かれこれ9年近くニュースレターを通して日本語ボランティアを見てきました。

スタッフの方々とは、ほとんどメールとファックスでのやりとりで、お会いするのは滅多に無いのですが、先日、日本語ボランティアがきっかけでドイツの人と結婚し、ドイツに住んでいる元編集スタッフの女性が一時帰国したので、久しぶりに会いました。彼女はドイツで在留日本人向けに、地元の町を紹介する小冊子を作るボランティアをしているそうで、頑張っている話を聞いてうれしくなりました。

サッカーのアジアカップをきっかけに、反日感情の問題が持ち上がっていますが、地道な努力をしているボランティアの方々の熱意で、日本人に対する印象はきっと変わっていくと思っています。

ただ、ここ数年、日本語ボランティアを取りまく状況は決して良くなっているとは思えません。予算もスタッフの人数も厳しいものとなってきているようで、ニュースレターもページ数や発行回数が減りました。そんな中でもより良いニュースレターを作ろうと奮闘している事務局スタッフの方々や日本語ボランティアの現場にいるの方々、がんばってください。私もより見やすい誌面を作るお手伝いをさせていただきます。

鶴田 環恵

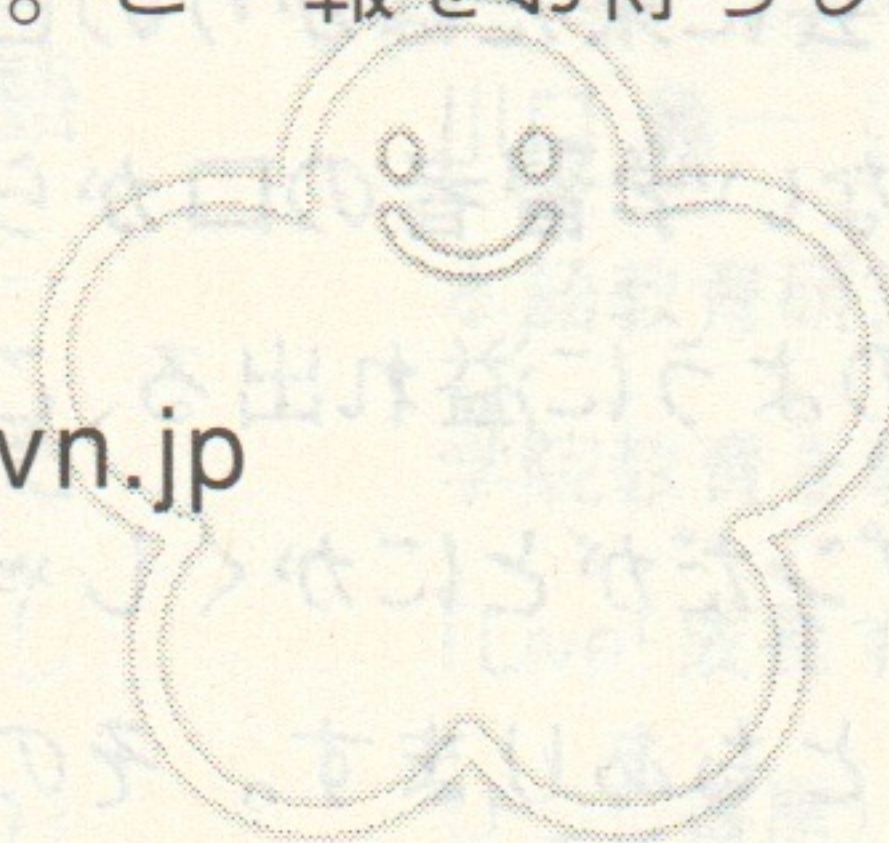
**ニュースレターの記事大募集！！**

TNVNで発行しています ニュースレター Nihongo Network News には、各地域で活動している日本語ボランティア教室の紹介やボランティアの声、学習者の声、その他日本語ボランティア活動に関係する教材・情報を載せています。多くの原稿をお待ちしています。また紙面についてのご意見をお待ちしています。  
ニュースレター編集担当までお寄せ下さい。郵便・メールいずれでも結構です。

**TNVNスタッフ募集！！**

TNVNの事務局スタッフ・ニュースレター編集員となってTNVNスタッフと一緒にボランティアでご協力いただけませんか。日本語ボランティア活動にご関心をお持ちの方・これから活動をしてみようとの意志の有る方。ご一報をお待ちしています。

e-mail  
webadmin@tnvn.jp



**会員数**

（2004年8月15日現在）

正会員：74団体 協力会員：74名

賛助会員：5団体

- 編集／岡田 美奈子、梶村 勝利、木村 茂、床呂 英一、西岡 暉純、林川 玲子、小川 伶子
- レイアウト／鶴田 環恵